

東日本下のスラブ内地震の発生様式とその特徴 北 佐枝子 (建築研究所)

ポイント

- プレート表面からの距離で分類すると、スラブ内地震（海洋性プレート内で発生する地震）の特徴把握が容易（図1、2）。
- 海溝型巨大地震発生（2011年 M9 東北地方太平洋地震）の影響は、東日本のスラブ内地震の地震活動、応力場（図2）、応力降下量で見られた。
- スラブ内地震とスロー地震（ETS）との因果関係は、西日本で見られた（図3）。

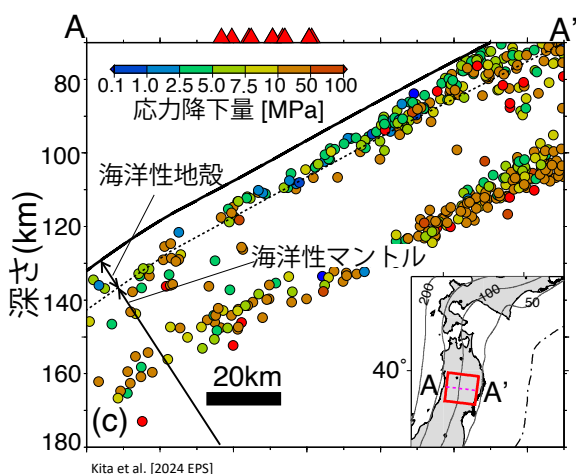


図1: スラブ内地震の応力降下量の分布(東北)。

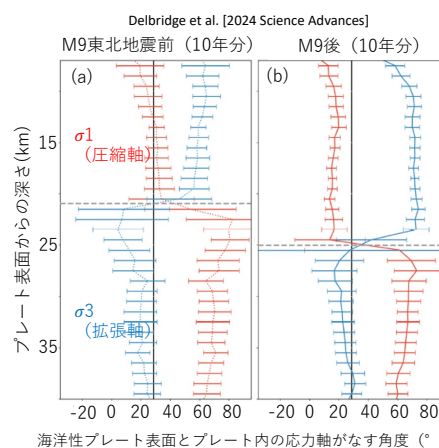


図2: M9地震前後のスラブ内の応力場の変化。

プレート境界での固着の時間変化(紀伊半島)

*スラブ内の応力の時空間変化に基づく

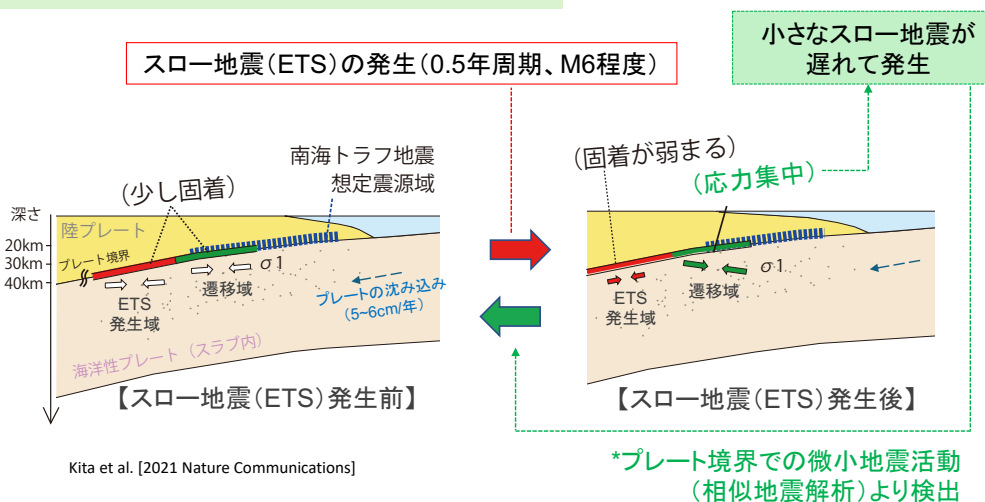


図3: 海洋性プレートとプレート境界との相互作用の時空間変化の模式図。